

番号	1-1
分野	自然の観察
タイトル	地球のマントルから来た石を探そう
サブタイトル	河原の砂や石からかんらん石を見つけて大地の成り立ちを考えよう。
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地下深くのマントルでつくられたかんらん石がどのようにして地表の砂となって現れたのか？ (30分) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 沢の泥砂は付近の地表の山の岩が沢水の手で削られ、運ばれ積もったものである。</li> <li>・ ハワイ島のホットスポットのような所ではマントル最上部のかんらん石が地表まで噴出する。</li> <li>・ マントルが下降する場所(日本)ではプレート最下部のかんらん石が含まれる岩が島孤になって陸地化する。</li> </ul> </li> <li>2. 沢水の泥砂からかんらん石を探し出す。(20分) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 泥砂を水を入れた簡易比重選鉱器に入れて泥砂から比較的大きな砂粒を取り出す。</li> <li>・ 簡易比重選鉱器の蓋を丸棒の栓付き給水キャップに替えキャップの丸棒に沈積した砂粒を水を張った鉢皿に移す</li> <li>・ 砂粒を鉢皿に広げ、サンプルを参考にして鉢皿から淡緑色の半透明な砂粒(かんらん石)をピンセットで拾い吸水紙に乗せる。</li> </ul> </li> <li>3. 吸水紙上のかんらん石を観察用ホルダーに移し、解剖顕微鏡(20倍)で観察をする。(10分)</li> </ol>
形態	講座、サイエンスショー、ワークショップ
受講対象	小学生(低学年、高学年)、中学生、大人
時間	1時間
ねらい	川底の泥や砂に含まれるかんらん石(8月の誕生石)の原石を手がかりに大地の成り立ちを考える。
材料費	0円
その他	
講師	菊池 渉